

校 報 滝 呂

多 治 見 市 立 滝 呂 小 学 校

たくましく豊かに伸びる滝呂の子ども
～考えつくりだす子 はげましあう子 きたえる子～
4 本柱「まんぞく授業」「さがかけあいさつ」
「ピカピカそうじ」「げんきな体と心」

<http://school.city.tajimi.lg.jp/takiro/>
2025.10.31 第 8 号

伝統的なお世話活動

校長 鈴木雄詞



2年生が生活科「おもちゃランドをひらこう」の学習で、1年生に楽しく遊んでもらうために、自分たちが考え作ったおもちゃを使ったお店を開き、1年生を招待しました。おもちゃにはいろんな工夫があって、ルールもよく考えられていました。1年生も最初は遠慮がちでしたが、2年生のリードで楽しく過ごすことができました。

ところで、このような異学年との遊びは、むかしは近所で普通に行われていました。その中でそれなりの上下関係ができ、大きい子が小さい子の面倒を見たりルールを教えたりする習慣も自然に身に付きました。子どもたちの小さな社会が形成されていったものです。現代ではこれを「伝統的なお世話活動」といいます。学校でもカリキュラムにこのような活動を意図的に取り入れて編成しています。子どもたちの人格形成において大切な要素だと考えるからです。

本校の子どもたちに限らず今の小学生は、幼少期にコロナ禍を経て、集団生活における子ども同士のかかわりを十分に経験していません。ですから、自分の感情を表したり伝えたりする力、相手との距離をほどよくとる感覚、相手の表情から気持ちをよみとる力などに弱さを感じます。コロナ禍が過ぎ去った今こそ、「伝統的なお世話活動」の役割は重要です。

↓（滝呂秋祭り）



学校の様子はホームページからもご覧いただけます。↓

